



南町小だより

つよく かしく あたたかく

平成28年11月30日

校長 福田 俊彦

思いやり、心遣いがつくる温かさ

校長 福田 俊彦

「カラフルな個性あふれるキラキラ美術館」をテーマとする展覧会に、多くのご来賓の皆様、保護者の皆様にご来場を賜りました。心より御礼を申し上げます。展覧会に向け、子供たちは自分の思いを形状や色彩に表現しました。展覧会への取組を通して、表現することの大切さ、心地よさ、そして、友達作品からの学び、心を動かされることなどの経験ができたことと思います。この学びは、子供たちが学校生活をより豊かなものにしていく原動力のひとつとなります。展覧会に臨んできた子供たちに姿に期待感をもっています。

さて、自宅の近隣に広い公園があります。「おとめ山公園」と言います。名前に山と付いているように神田川、新目白通りからなだらかな上りになっている公園です。芝生、せせらぎ、豊富な植物などに、家族連れ、お年寄りまでがそれぞれに楽しんでいます。私にとっても散策の場所として多様なことを届けてくれる場所となっています。自然からの情報、時間と空間をともにしている方からの情報、そして、公園を創り上げる要素にもなっている歴史や文化からの情報。どれも私を誘うものとなっています。

「おはようございます。」の声が行き交う場面がありました。歩きを止め「今日は天気が穏やかで・・・。」と会話を進める方々と出会う場面がありました。子供の遊びに柔らかな表情で興じている親子の姿がありました。芝生の上を風に転がる紙くずを拾っている方の行動が見られました。道を問われ、丁寧に説明している方に出会いました。転んだ子供に駆け寄り、さっと手を出し、声をかけている年長の子供がいました。一時の公園の中でも、私の心を温かくする光景を届けてくれるのです。きっと、心遣いが、思いやりがあふれていることなのでしょう。

私は、この公園を散策しながら南町小学校のことを思います。みんなの子供として係わっていただいている地域、保護者の方々との間に、子供が子供をはぐくむ南町小学校の子供たちの間に、人と人との間を温かくするものがあると。南町小学校の校庭から聞こえてくる声には「大丈夫?」「どうしたの・・・。」「ドンマイ。」があります。この声にはその意味を伝える行動があります。相手を思いやる、周りを気遣う行動が、その場の雰囲気や温かいものになっています。ふれあい月間の11月は終わりますが、子供たちが相手を思いやり、周りを気遣う姿は続きます。続けなければいけません。それが、南町小学校の文化となり、伝統となっています。

師走を迎え、社会の慌ただしさを感じることも多くなるでしょう。その時こそ、思いやり、心遣いが人と人との間を温かなものにしていくでしょう。子供たちにとってよりよい年末年始となるよう願っております。よいお年をお迎えください。